



※撮影時のみマスクを外しています。

チーム医療における臨床検査技師の役割

● ICT(感染制御チーム)

院内の感染対策を担うチーム。検査科は耐性菌やウイルスの出現を最も早く知る部署なので、見つけた場合はただちに病棟などに連絡します。院内向けの情報発信もチームで行っています。



● AST(抗菌薬適正使用支援チーム)

抗菌薬(抗生物質)が効かない薬剤耐性菌が世界的な問題となっています。ASTは抗菌薬の適切な使用を推進し、臨床検査技師は必要な検査を迅速に行うことでチームに貢献しています。

● NST(栄養サポートチーム)

手術後の患者さんの栄養状態を把握するため、指標となる項目(糖質、脂質、たんぱく質、ビタミンなど)を検査します。

病院のお仕事発見

臨床検査技師編

目指すのは患者さん第一の臨床検査技師チーム

病気の診断や治療方針の検討に欠かせない臨床検査。それが実施するプロフェッショナルが臨床検査技師です。検査は主に、人体から採取した血液などを検査する「検体検査」、心電図やエコーなど、人体に対して直接行う「生理検査」、手術などで採取した組織を調べる「病理検査」に分けられます。また、あまり知られていませんが、新型コロナウイルスのPCR検査も臨床検査技師が実施しています。

上越総合病院の検査科は、夜間・休日の救急外来を含む24時間365日検査に対応。背景には、「患者さんのために1分1秒でも早く検査結果を届けたい」と

臨床検査技師の仕事って？



いう強い思いがあります。そこでも力を入れているのが、チーム力の向上と人材育成です。27名の臨床検査技師は普段からコミュニケーションを取り、臨機応変に仕事ができる体制を確立。さらには夜勤に備え、自分の担当外の検査にも対応できるように、機械の操作方法やデータ分析などをマニュアル化。結果として優秀な人材育成につながり、より信頼される臨床検査チームへと成長しています。

生理検査

心電図や超音波(エコー)検査など、直接患者さんに触れて行う検査。他にも呼吸機能検査、脳波検査などがあります。

代表的な認定資格 **超音波検査士**

生化学検査

血液中の酵素、糖質、脂質、たんぱく質などを調べ、体内における様々な臓器の変化を把握します。

代表的な認定資格 **認定臨床化学・免疫化学精度保証検査技師**

一般検査

尿や便を検査して異常の有無を確認します。尿検査は腎機能などを評価し、便の検査は血液が混じっていないか調べます。

代表的な認定資格 **認定一般検査技師**



病理検査

手術で切除した臓器や、内視鏡などで採取した組織や細胞を顕微鏡で観察し、病変の有無や病気の種類を調べます。

代表的な認定資格 **細胞検査士**

細菌検査

発熱、肺炎、下痢などの症状を引き起こす病原菌を特定し、有効な抗菌薬を調べます。PCR検査も行います。

代表的な認定資格 **感染制御認定臨床微生物検査技師**

血液検査

採血を行い、血液の成分を調べることで貧血など様々な病気の発見につながります。輸血前の適合検査も行います。

代表的な認定資格 **認定血液検査技師**





上越総合病院

臨床検査技師長

フジタ カツヨシ
藤田 勝嘉

1989年入職、柏崎総合医療センター配属。1990年村上総合病院、1996年けいなん総合病院、2003年糸魚川総合病院、2004年長岡中央総合病院、2007年上越総合病院、2012年糸魚川総合病院（主任昇格）、2015年上越総合病院に勤務。2019年臨床検査技師長に昇格。コンピューターの知識を生かし、病院システム周辺のプログラム開発も行う。

臨床検査のプロとして
できることを問い続ける。

※撮影時のみマスクを外しています。

新型コロナウイルスと闘う 臨床検査技師24時

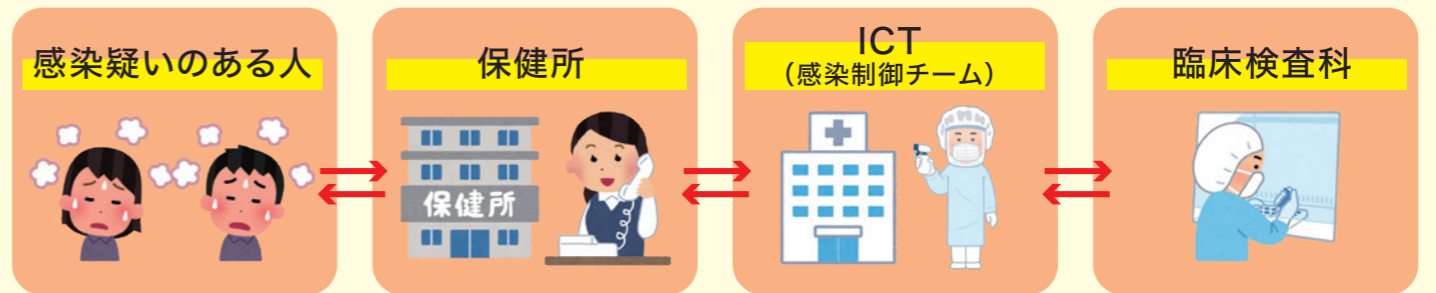


感染拡大を食い止める！
PCR検査は時間との勝負

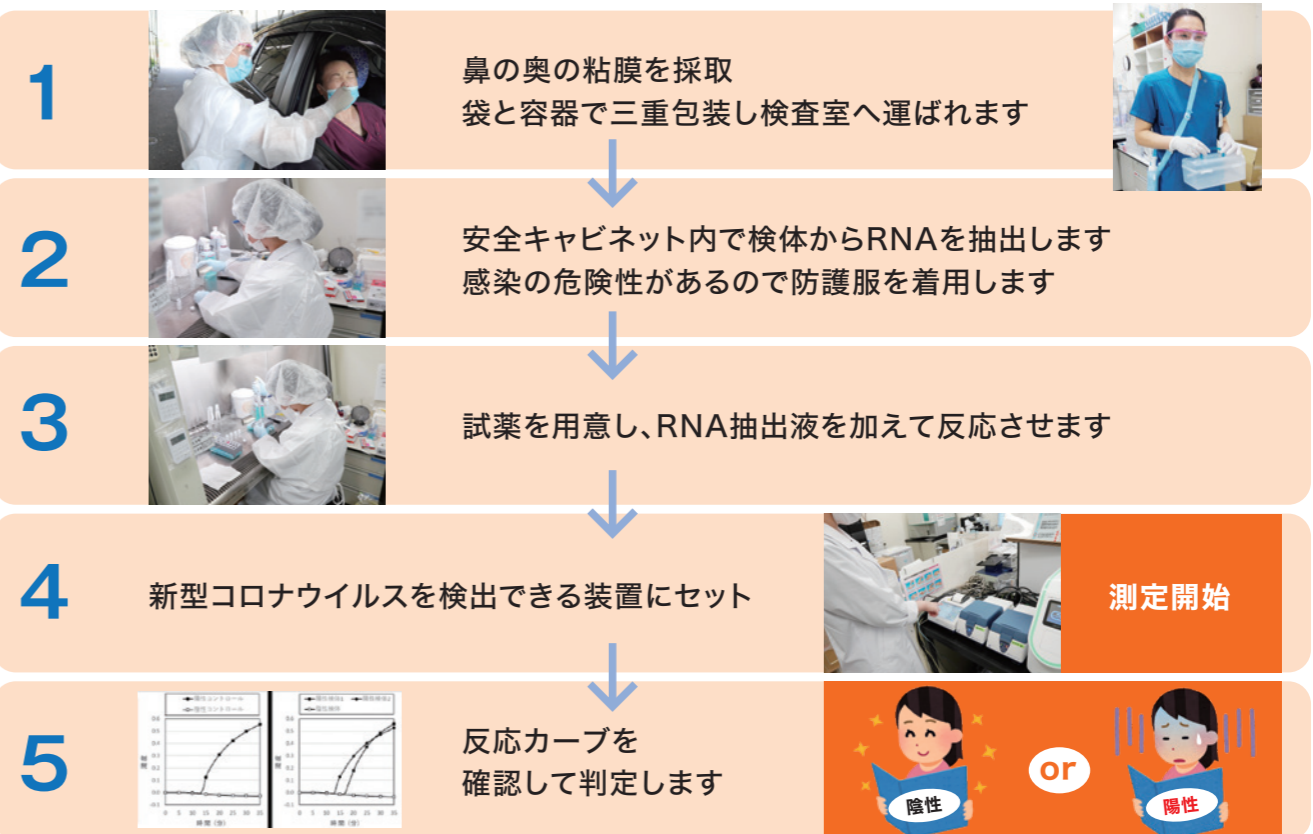
いまだ感染拡大が続く新型コロナウイルス。上越総合病院の臨床検査科は昨年5月、PCR検査の設備をいち早く導入。地域の保健所やICT（感染制御チーム）と連携し、PCR検査を実施しています。

感染拡大を少しでも食い止めるため、PCR検査は時間との勝負です。通常、結果が出るまで1日程度かかりますが、上越総合病院の検査科ではマニュアルを整備し、24時間365日対応とすることで1.5時間程度での検査を実現。結果はただちに報告され、陽性の場合にはさらにその濃厚接触者を特定し、必要に応じてPCR検査が実施されます。

「自分たちができることで、地域を守りたい」。熱い使命感を抱く臨床検査技師の活躍に、ぜひ注目してみてください。



PCR検査の進め方



医師や看護師と比べて患者さんと接する機会が少ない臨床検査技師だからこそ、「患者さん視線」を大切にする臨床検査技師がいます。上越総合病院の藤田勝嘉臨床検査技師長に話を聞きました。

臨床検査技師を目指したきっかけを教えてください。

13歳の時に病気で入院し、中学校にほとんど行けませんでした。入院中に担当の先生や看護師さんに大変お世話になり、自分も将来恩返しをしたいと思ったのが、医学の道を志したきっかけです。

現在は27名の検査技師チームを率いています。

臨床検査技師の仕事は、検査室にこもって黙々とこなすだけではただの作業になってしまいません。検体を運んでくれる看護師、検査結果を待つ医師、そして患者さんやご家族など、検査室の外にいる多くの人と関わっていることを常に意識できるチームでありたいですね。実務面では、インシデント（ヒヤリ、ハット）案件をリーダー経由で情報共有

し、改善と全体のレベルアップにつなげています。

PCR検査を始めた経緯についてお聞かせください。

私自身が細菌分野を専門としていたこともあり、新型コロナウイルスが流行し始めてすぐに「これは大変なことになる」と思いました。そこでPCR検査機器導入を提案したんです。検査機器といっても、検体を機械にかけるだけで自動的に判定が出るわけではありません。正確な手技、データの見極めなど高度なスキルが必要です。最初は2名体制でしたが、現在は10名の検査技師が24時間体制で対応しています。

今後も患者さん、地域、病院のためにできることを考え、行動する臨床検査技師でありたいです。



臨床検査技師 佐藤 晴香 サトウ ハルカ

先輩や上司の指導で1年目からPCR検査にトライ

地域密着のイメージがあり、それぞれ特徴の異なるグループ病院で経験を積めることに魅力を感じ、厚生連病院に就職しました。今は1年目で、採血や尿検査・血液・輸血検査、PCR検査も担当しています。特にPCR検査は「新人の自分にできるのかな」とプレッシャーもありました。でも先輩や上司にしっかりと教えてもらい、1週間ほどでできるように。今では一度に複数人の検査にも対応できます。

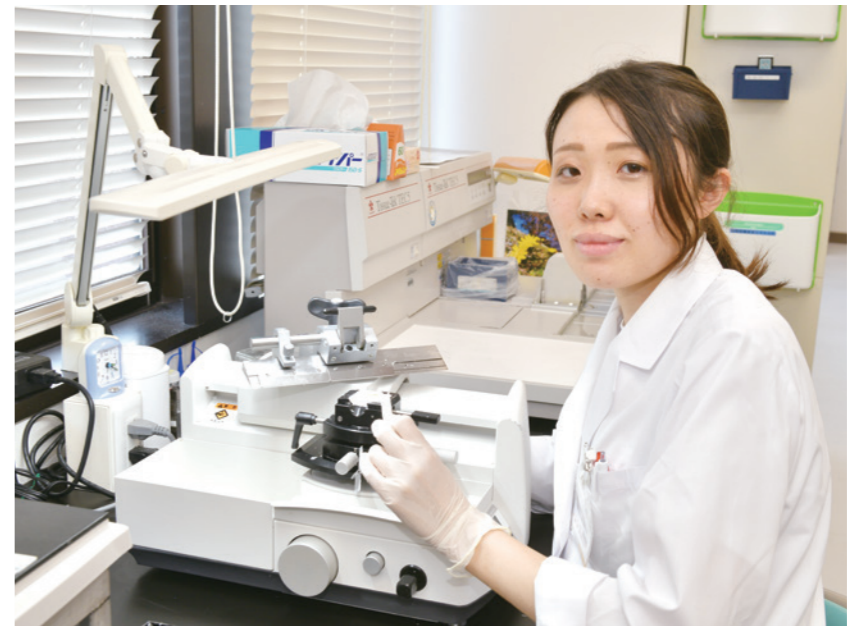
検体検査は患者さんの顔を直接見ることができませんが、検体を通して患者さんと向き合っていることを忘れず、患者さんのために速く正確な検査ができるよう努力していきたいです。

臨床検査技師 瀧澤 舞 タキサワ マイ

患者さんが安心して検査を受けられるようサポート

心電図やエコーなどの生理検査を担当しています。生理検査は、臨床検査の中でも患者さんと直接触れ合う機会が多い仕事です。不安を感じている患者さんも多いので、安心して検査に臨んでもらえるような声かけを心がけています。

生理検査には「超音波検査士」の認定資格があり、その中でも循環器、血管、体表臓器などの専門領域に分かれます。私が目指しているのは、腹部全体を検査する消化器分野。目標実現のためにも積極的に様々な症例を経験していきたいです。そして医師や看護師、他のコメディカルの人にも信頼される技師を目指します。



臨床検査技師 林真梨瀬 ハシ マリセ

一つひとつの経験から学び細胞検査士の夢をかなえたい

がんなどの病気を見つける病理検査のエキスパート「細胞検査士」を目指して臨床検査技師になりました。もともと病理専門の機関への就職を希望していましたが、求人が少ないこともあり厚生連病院へ。でも実際に働いてみると、病理以外にも様々な臨床検査を経験でき、それらが関連して病理につながっていることも分かり、結果的に病院に就職して良かったなと思います。

今後の目標は、細胞検査士の資格を取得すること。そして座学に加えて幅広い臨床経験を積み、一つの事象から様々な可能性を考えられる、視野の広い臨床検査技師になりたいです。



※撮影時のみマスクを外しています。

インタビュー
上越総合病院
私は、臨床検査技師の仕事が大好きです！



次号は
看護専門学校
です！

臨床検査技師からバトンを受け取りました、看護専門学校です。次号はイキイキとした学生の学ぶ姿や、卒業生・講師のお話をお届けします。どうぞご期待ください！

